

「令和6年度 土砂災害防止に関する 絵画・作文」

入賞作品集

令和7年3月 鹿児島県土木部砂防課

かごしま未来応援隊！

(愛称：KM0「Kagoshima Mirai Ouentai」)



御 礼

令和7年3月

鹿児島県土木部砂防課長

久野 聡

国土交通省と県は、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害防止に関する様々な行事を行っています。その一環として、土砂災害及びその防止について理解を深めていただくため、県内の小・中学校の生徒を対象に「令和6年度土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集しました。

募集に対して県下46の小・中学校から、合計233点（絵画120点、作文113点）もの応募がありました。応募いただいた生徒及び保護者の皆様、また学校関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

作品は県の審査を経て、国土交通省で審査が行われました。その結果、国土交通省の受賞4作品、県の受賞11作品、合計で15作品が決定されました。受賞された生徒の皆様、誠におめでとうございます。

受賞作品については、県において作品集として取りまとめました。

また、土砂災害防止の広報、啓発のため、受賞作品を県ホームページで公表しているほか、県内各地において巡回展示し、多くの方々に観ていただくこととしております。展示のスケジュールが確定しましたら、順次、県ホームページなどでお知らせします。

土砂災害は、短時間で多くの人の生命・身体・財産を奪うおそろしい災害です。令和6年は、45の都道府県で1,433件の土砂災害が、本県においても38件の土砂災害が発生しております。今後も引き続き土砂災害を防止するため、砂防えん堤や斜面の保護などのハード対策とともに、警戒避難体制の支援などのソフト対策をあわせた総合的な取組を推進し、県民一人ひとりが安心・安全に暮らせる強靱な県土づくりを進めてまいります。

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」の募集結果について

令和7年2月
鹿児島県砂防課

1 目的

土砂災害防止月間(6月1日～30日)の一環として、県内の小学生・中学生を対象に土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めてもらうため実施する。

2 募集期間

令和6年6月1日から同年9月15日まで

3 本県の入賞作品数

- (1) 国土交通大臣賞1点
(絵画(小学生)の部)
- (2) 国土交通事務次官賞3点
(絵画(小学生)の部2点, 作文(中学生)の部1点)
- (3) 県知事賞 最優秀賞 4点, 県知事賞 優秀賞 7点

4 令和6年度の全国(本県)の応募作品数及び入賞作品数

(単位:点)

区 分	応 募 作 品 数			入 賞 作 品 数					
				最 優 秀 賞 国土交通大臣賞		優 秀 賞 国土交通事務次官賞		県知事賞 最優秀賞	県知事賞 優 秀 賞
	うち本県	国への推薦数	うち本県	うち本県					
絵画(小学生)の部	1,205	(89)	(3)	1	(1)	15	(2)	(1)	(1)
絵画(中学生)の部	1,415	(31)	(2)	1		15		(1)	(2)
作文(小学生)の部	376	(5)	(1)	1		15		(1)	(2)
作文(中学生)の部	661	(108)	(3)	1		15	(1)	(1)	(2)
計	3,657	(233)	(9)	4	(1)	60	(3)	(4)	(7)

<参考>本県の応募作品数及び入賞作品数の推移

(単位:点)

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
小学生	絵 画	31	111	98	47	75	89
	(国土交通大臣賞)			(1)			(1)
	(国土交通事務次官賞)		(2)	(1)	(2)	(3)	(2)
	(県知事賞 最優秀賞)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(県知事賞 優秀賞)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)
	作 文	27	20	44	9	2	5
	(国土交通大臣賞)						
	(国土交通事務次官賞)		(1)	(2)		(1)	
	(県知事賞 最優秀賞)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(県知事賞 優秀賞)	(2)	(2)	(2)	(2)	(0)	(2)
計	58	131	142	56	77	94	
学校数	19	37	30	19	17	21	
中学生	絵 画	33	157	78	23	40	31
	(国土交通大臣賞)						
	(国土交通事務次官賞)		(1)	(1)		(1)	
	(県知事賞 最優秀賞)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(県知事賞 優秀賞)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	作 文	67	107	191	110	76	108
	(国土交通大臣賞)						
	(国土交通事務次官賞)	(2)		(1)	(2)	(1)	(1)
	(県知事賞 最優秀賞)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(県知事賞 優秀賞)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
計	100	264	269	133	116	139	
学校数	22	40	27	21	37	25	
応募作品数	合計	158	395	411	189	193	233
学校数	合計	41	77	57	40	54	46

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」受賞者

(敬称略)

部門	学校名	学年	氏名	受賞名
絵画	かごしましりついでしきしょうがっこう 鹿児島市立伊敷小学校	6	みなみ れな 南 侖奈	国土交通大臣賞
	かごしましりつみやかわしょうがっこう 鹿児島市立宮川小学校	6	おだ りのん 小田 李音	国土交通事務次官賞
	きりしましりつあもりがわしょうがっこう 霧島市立天降川小学校	6	のざき こうた 野崎 宏太	国土交通事務次官賞
	かごしましりつふくひらしょうがっこう 鹿児島市立福平小学校	1	やまさき りく 山崎 陸	県知事賞 最優秀賞
	さつませんだいしりつとうごうがくえんぎむきょういっく 学校 薩摩川内市立東郷学園義務教育	4	みやうち まな 宮内 茉愛	県知事賞 優秀賞
	かごしましりつこおりやまちゅうがっこう 鹿児島市立郡山中学校	2	きし かりん 岸 歌凜	県知事賞 最優秀賞
	かごしましりつひがしたにやまちゅうがっこう 鹿児島市立東谷山中学校	2	たけの うち りゆうな 竹ノ内 琉那	県知事賞 優秀賞
	かごしましりつこおりやまちゅうがっこう 鹿児島市立郡山中学校	3	みやうち ゆな 宮内 優菜	県知事賞 優秀賞
	作文	かごしましりつけのしょうがっこう 鹿児島市立花野小学校	6	くまさこ のあ 熊迫 乃愛
あまぎちようりつかねくしょうがっこう 天城町立兼久小学校		2	たけした しゆんき 竹下 竣稀	県知事賞 優秀賞
かごしましりつけのしょうがっこう 鹿児島市立花野小学校		5	みなみ さち 南 紗智	県知事賞 優秀賞
かごしましりつたにやまきたちゅうがっこう 鹿児島市立谷山北中学校		1	あんしやう みのり 安荘 心乃璃	国土交通事務次官賞
かごしましりつかもいけちゅうがっこう 鹿児島市立鴨池中学校		3	てらし ほのか 寺師 帆華	県知事賞 最優秀賞
きかいちようりつきかいちゅうがっこう 喜界町立喜界中学校		1	つじさき えり 辻崎 瑛理	県知事賞 優秀賞
きかいちようりつきかいちゅうがっこう 喜界町立喜界中学校		2	こやま かつとし 小山 勝利	県知事賞 優秀賞

入 賞 作 品

【絵 画】

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」
国土交通省・鹿児島県入賞作品(絵画)

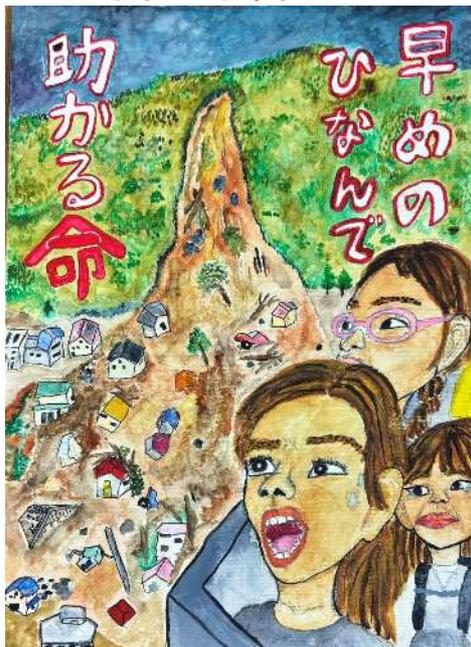
【小学生の部】

国土交通大臣賞



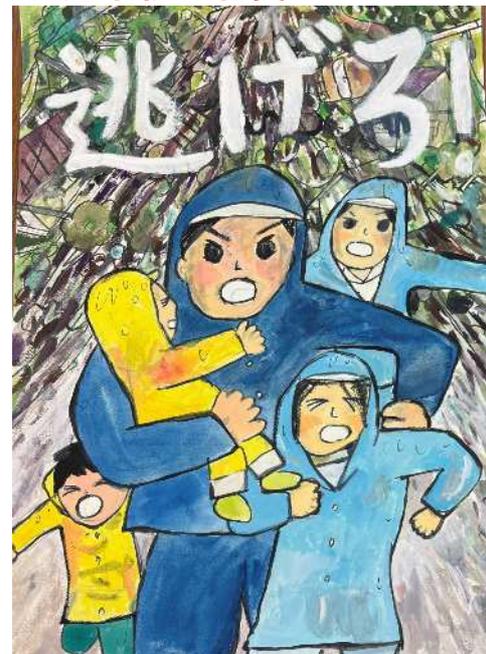
鹿児島市立伊敷小学校6年 南 伶奈
「命を守る備え 大切に」

国土交通事務次官賞



鹿児島市立宮川小学校6年 小田 李音
「早めのひなんで助かる命」

国土交通事務次官賞



霧島市立天降川小学校6年 野崎 宏太
「逃げろ！」

県知事賞 最優秀賞



鹿児島市立福平小学校1年 山崎 陸
「早めに避難 守ろう命」

県知事賞 優秀賞



薩摩川内市立東郷学園義務教育学校4年 宮内 茉愛
「土砂災害その油断が命の危険」

【中学生の部】

県知事賞 最優秀賞



鹿児島市立郡山中学校2年 岸 歌凜
「命を守ろう」

県知事賞 優秀賞



鹿児島市立東谷山中学校2年 竹ノ内 琉那
「あって良かった砂防ダム」

県知事賞 優秀賞



鹿児島市立郡山中学校3年 宮内 優菜
「備えあれば未来あり」

入 賞 作 品

【作 文】

「土砂災害防止に大切なこと」

鹿児島県 鹿児島市立谷山北中学校 1年 安莊 心乃璃

ある日、土砂災害を題材にしているニュースを見た。そのニュースには、泣き崩れている人や、抱き合っている人の姿が写しだされていた。見ていると、とても悲しく苦しい気持ちになった。二度とこんなことが起きてほしくないと思い、私たちにできることは何か、鹿児島県が行っている防止対策は何かを知りたいと思った。

私たちの住んでいる鹿児島県は、過去に土砂災害が多発しており、全国でも土砂災害の多い地域の一つである。なぜなら、鹿児島県はシラス台地でおおわれているからだ。その中でも鹿児島県民のほとんどが知っている86水害。その水害で竜ヶ水という地域が土砂災害によって大きい被害を受けた。私の親戚の人の体験だが、電車に乗車中、竜ヶ水を通過している途中で、電車前方と後方に土石流が流れ落ちて来たそうだ。それを聞いただけで全身がゾクッとした。あともう一步進んでいたら、命はなかったかもしれない。そんな中、そこにいた人たちは互いに助け合いながら危機的状況を乗り越えたという。もし、私がこんな目にあっていたら、手も足も動かないかもしれないし、頭が混乱してしまうかもしれない。しかし、被害にあった人たちは冷静に指示に従って動いたそうだ。だが、この土砂くずれで亡くなってしまった人は4人で、行方不明者はまだ49人いるそうだ。

このような災害があった教訓としてどのような対策が行われているのか、鹿児島県が行っている土砂災害防止対策を調べることにした。86水害で大きな被害を受けた竜ヶ水地区では、あの日の災害以来しゃ面の補強や、雨の量が200ミリを超えると通行止めになるなどの対策をしている。そして、鹿児島県本部によると、「土石流やがけ崩れの発生するおそれがある区域を調査し、土砂災害警かい区域や、土砂災害特別警かい区域を指定している。」とあった。その他にも土石流や流木などを受け止め、被害を少なくする砂防えん堤や、しゃ面の保護などの施設を整備している。

こうして鹿児島県は私たちの身を守るためにいろいろな工夫をして土砂災害に備えてくれていることが分かった。でも、鹿児島県だけが防止対策をしても防げる確率は低い。私たちも自分自身で対策をしないと、土砂災害で命を落とすことがあるかもしれない。そこで、私たちにできることを考えてみた。1つ目は、準備しておくことだ。土砂災害はいつ起こるかわからない。だからその時に備えて食べ物や飲み物などリュックに入れておくことが大切だ。私の家には防災リュックがあり、長期保存ができる食べ物や飲み物、居場所を知らせるホイッスル、空気を入れたらふくらむしき布団などが入っている。今の時代、お店に防災グッズがたくさん売っているのも、みなさんも目をむけてみては良いのではないだろうか。2つ目は、早めに避難することだ。私たちが警かい情報を知ることができるのはスマホやテレビだ。スマホでは緊張感を持たせるために怖く、嫌な音を出して土砂災害警かい情報を知らせる。テレビでは、音と共に字幕が流れる。しかし、警かいがでてから避難するのは遅いこともある。だから、警かいレベル4になった時点で、安全な場所を確保することが大切だ。でも、無理に避難場所へ行く必要はない。家の2階以上に行くことも避難だ。3つ目は、土砂災害危険箇所を知っておくことだ。鹿児島県はどこに行っても必ず山がある。だからどの山が危険箇所なのか、事前に知っておくことが大切だと考える。

今回、この作文を通して今まで知らなかったことを知識として取り入れることができたし、実際に土砂災害を経験した親戚の人の話も聞くことができて、改めて災害がどんなに怖いことなのかを知り、考えることができた。土砂災害を防ぐ方法はたくさんある。さきほど取り上げた3つの私たちにできることを実践し、自分自身の身を守ろうとすることが大切だと思う。鹿児島県と県民が協力するからこそ防げることがたくさんあるのではないだろうか。

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部
(県知事賞 最優秀賞)

「地しんがおきたら」

鹿児島県 鹿児島市立花野小学校 6年 熊迫^{くまきこ} 乃愛^{のあ}

ブーブー

「地しんです。地しんです。」

歯医者さんの待合室にいた時のことです。急に母のスマホからアラームが鳴り、私はびっくりしました。その直後、建物がゆっくりと横にゆれ始め、周りに置いてある物もゆれ始めました。ゆれている時間は長く感じ、こわいと同時に少し気持ち悪くなりました。

家に帰ってテレビをつけると、地しんのニュースばかりでした。宮崎でしん度6弱、鹿児島市で5弱でした。私は、こんなに大きい地しんを経験したのは初めてでした。今年の1月1日は、石川県ののと地しん、8年前は熊本地しん、そして私が生まれる1年前は、東日本大しん災と、大きな地しんは起こっています。

そこで、もし地しんにあったらどう対処すればいいのか、やっとならいけないことは何か調べてみました。

自分の家の中で地しんが起きた時は、丈夫なテーブルの下にかくれる、家具や物が落ちてこない空間に移動する、など学校で習ったことが書いてありました。

もしスーパーなどで地しんにあった場合、窓や商品だかなからはなれ、買い物かごなどで頭を守る、エレベーターに乗っていたら、すべての階のボタンを押し、停止した階で降りる、と書いてありました。

次に、地しんが起きた時にやっとならいけないことは何か調べてみました。海や川などの状態を見に行ったりしない、よく確認せずに、部屋の中を歩いてはいけない、と書いてありました。地しん後は、割れた窓ガラスや照明など、けがの原因になるものが散乱している可能性があるからです。そして、エレベーターに乗って閉じ込められている時は、声ではなく「音」を出して体力を温存するといいと書かれてありました。

そして、地しんの備えで大切なことも調べてみました。1つ目は、き険な場所を確かめておくこと。2つ目は、逃げ方をおぼえたりすること。3つ目は、ひなん場所を決めておくこと、と書かれてありました。

地しんが起きた時は無理に体力を使わず、まずはつくえの下にかくれて身を守り、地しんがおさまるまで待機して、近くの公園の中央に集まったりするなどして、自分の命を守る行動が大切だと思いました。

8月29日、鹿児島に台風10号がきました。前日は、買い物に行き、ペットボトルの水やお茶、かん電池などを買いました。家に帰ると、母はたく上カセットコンロ、ガスボンベ、かい中電灯などを出して、1カ所にまとめていました。父は、窓のシャッターを閉めて、家の周りに置いてある物を片付けて、チェックをしていました。

「お風呂のお湯は捨てないでね。」

と母に言われました。夜になるとものすごい風の音がして、シャッターがガタガタゆれていました。台風は、地しんとは違い、天気予報をみながら準備ができます。それでも、風や雨の音が強くなると不安な気持ちが広がってきました。

自然災害はいつ、どこで起こるかわかりません。学校で毎年やっているひなん訓練は、とても大事なことであらためて思いました。ひなん訓練があった時は、よく話を聞き、いざというときにあわてないようにしたいと思います。また、ひなんできても、その後の生活もあります。もしかしたら土砂が崩れてくるかもしれません。ひなんして生活することも考えられます。家にあるもので、家族みんなが安心して過ごせるのか心配になってきました。次は、災害に備えた防災グッズや危険な場所についても調べてみようと思います。そして、少しでも安心して暮らせるようにしたいと思います。

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部
(県知事賞 最優秀賞)

「 8・6水害が伝えたもの 」

鹿児島県 鹿児島市立鴨池中学校 3年 寺師 帆華

最近ニュースで「土砂災害に警戒してください。」という言葉をよく耳にする。実際に昨年の土砂災害発生件数は過去平均を上回る1471件発生しており、そのうちの約70件が鹿児島県である。なぜ日本はこの時期に土砂災害が多いのか。それは、土砂災害が発生しやすい条件に日本の地形や気候が当てはまっているからだ。日本には高く険しい山やもろい地質の山が多い。さらに日本は地震大国であり、梅雨や台風の影響で激しい雨が降る。これらによって土砂災害が発生し、山が崩れることで被害が大きくなってしまふのだ。私たちが住む鹿児島県も過去に大災害が発生した。

1993年8月6日、鹿児島市を中心に集中豪雨が襲った。その名も「8・6水害」。私はこの災害を経験した祖父に話を聞いた。この日、祖父は桜ヶ丘で仕事をしていたそうだ。祖父は毎朝、天気予報を確認している。この日の天気は大雨。いつもと違う雨を感じていたが、今までに激しい災害を経験していなかったので軽く見ており、そのまま仕事現場へ向かった。小学校の校舎の中で作業をしているため、外の様子はあまり分からない。するとお昼のラジオで大雨による被害が大きいことを知り、午後5頃に早めに仕事を終わらせた。だがもう遅かった。外の景色がいつもと違う。何ヶ所もの排水溝の蓋が外れて噴水のようになっており、甲突川は道路まで水があふれて橋を渡れない。車ではこれ以上進めなかったため道を引き返し、職場に車を置いて流されないようにロープを巻き付けた。歩いて帰ることも難しくなったため、職場の近くに住んでいる同僚の家に避難した。しばらくして雨が少し弱まり午後10時頃、橋が渡れないか様子を見に行つた。ダメだと分かっている、心配で見に行きたくなってしまうらしい。そこには川か雨か分からない濁った水が膝から腰くらいの高さで流れていたのだ。地面がどこか分からず、油断してしまうと足をとられるので歩くことに必死だったという。祖父は同僚の家に帰り、家族が無事か確かめるための連絡をとったが、つながったのはそれから何時間か後だったそうだ。そして雨が止んで川の水が引き、午前1時頃に職場に戻ることができた。そこに置いていた車の中はハンドルのところまで水がつかっていたらしく、開けると泥がたまっていたエンジンは壊れ、車は動かなくなっていたそうだ。結局、祖父が家に帰り着いたのは朝。家に帰れず、川が氾濫してしまうほどの大雨だったことが話を聞いて分かった。また、私が中学2年生のとき、職場体験で訪れたラジオ局で当時の音声を聞いた。それは、60代くらいの男性が消防に通報してきたものだった。雨の中慌てているからか、その男性は早口であり聞き取ることができなかった。他の人たちも電話の向こうで叫んでおり、落ち着きがない様子だ。それもそのはず、大雨の影響で男性たちのすぐ近くを土砂が流れているのだ。するとそのとき、男性が大きな声で、

「おい、何してるんだ。早く逃げろ！」

「プツッ。プー。プー。」

緊迫した状況の中、電話が切れた。この瞬間を私は一生忘れない。文章で表すことができないほど、生の音声の力は大きく、私は全身鳥肌が立った。約30年前の音声だが、すぐそこで災害が起こっていると思ってしまった。電話の向こうで何が起きたのかは分からない。あの男性はどうなってしまったのか。通報を受けた通信指令室はどのような気持ちだったのか。想像するだけで恐ろしい。

このように「8・6水害」というものはたくさんの犠牲を生んでしまったが、この経験を生かせば未来の命を守ることでできる。現在の鹿児島県では大雨が降っても、川が氾濫するということがあまり聞かない。なぜならこの経験を生かし、川底を深くする工事が行われたからだ。人は学んで成長する。このことを改めて感じさせる出来事だった。また「防災士」という資格もある。「防災士」とは、社会の様々な場で「防災力」を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識、技能を修得したことが認証されたという民間資格だ。私の父はこの資格を取得している。こんな風に一人一人が防災への正しい知識を身につけ、一人でも多くの命が助かることを願っている。

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部
(県知事賞 優秀賞)

「土しゃさいがいのこと」

鹿児島県 天城町立兼久小学校 2年 ^{たけした}竹下 ^{しゅんき}竣稀

「クロウサギを見に行こうよ。」

ぼくは、家ぞくで南ぶダムというばしょへ、アマミノクロウサギをさがしに行きました。

ついてすぐ、草の中にじっとしているアマミノクロウサギを見つけて、うれしくなりました。

かえりみちでも、どうろのかたすみにじっとしているアマミノクロウサギを見つけ、近くでかんさつすることができました。

「もっとたくさん見たいな。」

と、言っていたら、おとうさんが、

「山みちの方から、かえろうか。」

と言ったので、ぼくは車のまどからアマミノクロウサギがいないか、さがしました。

すると、土しゃがくずれて行き止まりになっているばしょにつきました。それから先にはすずめなかつたので、車でバックして、きたみちをもどりました。

そういえば、何日か前に雨の日がつづいていたから、土しゃくずれがおきてしまったのかなと、ぼくは思いました。

ぼくは、土しゃくずれになっているところをはじめて見て、とてもおどろきました。そして、土しゃくずれにまきこまれたアマミノクロウサギはいなかったかなと、しんばいになりました。

自ぜんの中でくらししているどうぶつたちは、どうしているのかな、だいじょうぶかな。

夏休みのおわりに、たい風10号がやってきて、とくのしまでも、大雨がふりました。もしかしたら、またどこかで土しゃくずれがおきているのかもしれないと、ぼくは思いました。どうか、生きものたちがぶじであるようにと、こころの中でねがいました。

テレビでは、たい風10号のニュースがたくさんながれていました。その中に、ぼくのお兄ちゃんがすんでいるみやざきけんで、たつまきがおきたというニュースを見て、すぐにでん話をしました。お兄ちゃんはおぶじだったので、家族みんなであんしんしました。

さいきん、日本のいろいろなところで大雨がおきて、土しゃくずれにまきこまれたというニュースをよく見ます。いつおこるかかわからないので、あぶないところには近づかないのがよいと思いました。

ぼくの町には、土しゃくずれがおきやすいばしょがあり、ち図でわかるようになっています。家ぞくみんなで、どこがあぶないのか、きちんとかくにんしておきたいです。

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部
(県知事賞 優秀賞)

「 防災無線の大切さに気づいた私 」

鹿児島県 鹿児島市立花野小学校 5年 南 紗智

「緊急放送、緊急放送、こちらは、防災鹿児島市役所です。土砂災害が発生するおそれが高まったため、身の安全を確保してください。」

今年に入って、この放送を何度か耳にしていました。最初は、防災無線放送が鳴るたびに、「うるさいな、もう分かっているから」といかりを感じていました。特に夜中に鳴ると、ねむりを邪魔されることが多く、めいわくだとさえ思っていました。

また鹿児島だけでなく、私のウフとパーパー（与論の方言で祖父と祖母）のいる与論でも緊急ひ難放送が流れることもあり、その度に、父が与論へ電話をかけ、ウフとパーパーの安否確認を行い、ほっとしていました。

夏休み、与論に行った時、土砂災害防止の取組について取組についてパーパーにたずねてみました。与論島は平らで大きな山はありませんが、赤土でできているため、がけくずれが起きやすいそうです。

まず、パーパーは、テレビなどの情報を見て、台風が来る前に情報収集を行います。空が黒くなり始め、海もだんだんとあれだし、風が強くなってくると、家庭でできる対策を始めます。例えば、1週間分の食料を買いにいき、水をため、雨戸を閉め、庭に飛ぶものがないか、排水溝に葉っぱがたまっていないか点検をして方づけます。

島全体の取組としては、急なしゃ面をなだらかにする工事を行ったり、がけがくずれないように強をしたりしています。また、ひんぱんに台風がやってくるため、防災無線を使って早めのひ難をよびかけています。ウフかパーパーもひ難訓練には必ず参加し、万が一に備えてひ難先のルートの確認を行っています。

パーパーの話聞いて、島の人々がどれだけ土砂災害防止に真げんに取り組んでいるのがよくわかりました。パーパーの経験を生かして、私も自分たちでできることを考えました。まず、家庭での備えとして、非常食や水をためておくことを定期的を確認し、必要なものを備えておくことが大切です。また、家の周りを点検し、飛びやすいものを片付けたり、雨戸をしっかりと閉めたりすることも必要です。

さらに、地域みんなの防災意識を高めるために、ひ難訓練に積極的に参加し、いざというときのひ難する場所を確認することが必要です。防災無線か地域の情報を常にチェックし、早めのひ難を心がけることも大切です。

私たち1人ひとりが防災意識を持ち、日頃から備えておくことで、災害があった時に、あわてなくて済みます。パーパーの話聞いて、私も防災についてもっと学び、家族が地域の人々と協力して安全な生活をすごしていきたいと強く思うようになりました。

この経験を通して、防災無線放送について嫌な思いを持っている自分の考えを反省しました。日頃から防災意識を持ち、情報をしっかりと受け止めることが、自分の家族の命を守るためにどれほど重要かを学びました。

これから、本格的な台風シーズンが始まります。その度に土砂災害の危険性も高まってくると思います。きっと防災無線放送も鳴ることでしょう。今後私は、防災無線放送が鳴るたびに、その情報について真げんに受け止め、あわてずに行動するようにします。そのことが、自分たちの命を守ることにつながり安全を守るための第一歩になると考えます。

令和6年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部
(県知事賞 優秀賞)

「土砂災害から身を守るために」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 1年 辻崎 瑛理

土砂災害は、日本の自然災害の中でも非常に身近であり、特に梅雨や台風のシーズンには頻発します。家屋の破壊や人命の損失をもたらすことがあり、地域社会にとって大きな脅威となっています。そこで私は土砂災害の原因、被害の状況、そして予防策について考えてみました。

まず、土砂災害の主な原因は、地形的な特徴と気象条件の組み合わせです。日本は国土の約7割が山地であり、斜面が多く存在します。これらの斜面は、豪雨や長期間にわたる降雨により、地表の土が水を含んで重量が増加し、不安定な状態におちいります。その結果、土砂が崩れ落ちる土砂崩れや、土石流などの現象が発生します。さらに、地震も土砂災害の一因となります。地震によって斜面が揺れ、地盤の変形や亀裂が、後の降雨によって災害をおこすリスクを高める場合もあります。特に、日本は地震大国であり、こうしたリスクが常に存在していることを忘れてはなりません。さらに、気候変動も土砂災害の頻度と規模に影響を与えています。近年、地球温暖化により異常気象が増加しており、豪雨の頻度や強度が増しています。これにより、本来は安全とされていた地域でも土砂災害のリスクが高まっているのです。

次に、土砂災害の影響についてです。土砂災害が発生すると、莫大な被害をもたらされます。まず、家屋や道路が土砂に埋め尽くされ、人命が奪われる可能性があります。特に、深夜に発生した場合、住民が避難する時間がなく、命を落としてしまうことも少なくありません。実際に、毎年日本では土砂災害によって多くの家や道路が被害を受け、多くの人が怪我をしたり亡くなったりしています。また、土砂災害が発生すると、被害を受けた地域では長期間にわたって生活が困難になります。例えば、道路が土砂で塞がれてしまうと、物資の運搬ができなくなり、食べ物や水が不足することもあります。また、電気や水道が止まってしまうこともあり、日常生活に大きな支障が出ます。このような状況が続くと、被災した人たちが元の生活に戻るまで非常に多くの時間がかかります。

最後に、土砂災害の予防策についてです。土砂災害を防ぐためには、事前にどのような対策を取るべきか考えることが重要です。まず、危険な場所に住んでいる場合、早めに避難することが大切です。気象庁や市町村が発表する警報や避難指示に従い、安全な場所に移動するようにしましょう。また、自分の住んでいる地域が土砂災害のリスクが高いかどうかを日頃から確認しておくことも重要です。ハザードマップを見たり、学校や自治体が行う防災訓練に参加したりすることで、いざというときにどう行動すればよいか学ぶことができます。さらに、地域全体での取り組みも必要です。例えば、山の斜面に木を植えることで、土砂が崩れにくくすることができます。木の根が土をしっかりと支えるため、雨が降っても土砂が流れにくくなります。また、排水設備を整えることも大切です。雨水が斜面にたまらないように、しっかりと排水できるようにすることで、土砂崩れのリスクを減らすことができます。土砂災害が発生した後の対応も重要です。まず、被災した人々が安全な場所に避難し、必要な支援が届くようにすることが優先されます。救助隊やボランティアの人たちが協力して、道路の復旧や物資の配布を行います。さらに、被災した地域が再び同じような災害に見舞われないよう、長期的な対策を講じることも求められます。例えば、斜面の補強工事や、災害に強いインフラの整備などが行われます。

このように、土砂災害は日本にとって非常に身近で怖い自然災害です。しかし、事前の対策をしっかりと行い、いざというときに冷静に対応することで、被害を最小限に抑えることができます。私たち一人ひとりが土砂災害について正しい知識を持ち、自分の身を守るための行動を取ることが大切です。地域全体で協力し合い、災害に強い社会を作っていくことが、未来の安全を守るための大きな一歩となるでしょう。

令和6年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部
(県知事賞 優秀賞)
「命を守るためにできること」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 2年 小山 勝利

日本は世界でも、土砂災害の多い国だと言われている。発生件数は、年によってばらつきがあるが、少しずつ増えている。もし、土砂災害が自分の周りで起こってもしっかり対処できるように、土砂災害について知ることが大切だと思った。そのため、僕は土砂災害について調べてみることにした。

まず、日本が土砂災害が発生しやすい理由についてだ。日本は、雨や地震が他の国と比べて多いことが土砂災害の多い原因とされている。雨による洪水、地震によるがけ崩れや地滑りなどが起こり、土砂災害が起こるそうだ。

実際に起きた土砂災害を調べてみた。2014年8月に広島を襲った突然の豪雨。わずか3時間で1ヶ月分の大雨が降り、市内166か所で土石流やがけ崩れが発生し、多くの人が逃げる間もなく被害にあい、77人が犠牲になった。その原因となったのは雨雲が急激に発達してできる線状降水帯だった。線状降水帯とは、下層の暖かく湿った風が地形や前線の影響などで上昇し積乱雲が発生、上空の風に流されることで列をなすように積乱雲が次々に発生し、線上にのびた雨域のことだそうだ。また、山のふもとに多くの人が住んでいることや、時間帯が深夜だったことが大きな被害に繋がってしまったそうだ。深夜だと、避難するか、家にいるかの判断が難しいそうだ。このことから、自分がどんな場所に住んでいるかを知り、土砂災害が起きた時の想像をしてスムーズに避難できるようにすることが大切だとこの事例を調べて深く感じた。また、避難訓練などを行って、土砂災害に備えておくことも大切だと思った。

小学2年生の頃、僕が住んでいる喜界島でも50年に1度の雨が降ったことがあった。僕の家の近くの道路は水で溢れて川ようになっていた。島内の複数箇所で土砂崩れが起き、たくさんの場所が通行止めになっていた。給食を食べていると先生が

「急いで帰りの準備をしてください。」

と言われ、急いで帰る準備をしたことを今でも覚えている。大雨の中、学校に通じる道路は子供たちを迎えに来る親の車で渋滞が起きていた。この大雨の反省から、小学校では災害に備えて子どもの引き渡し訓練を行うようになった。毎年梅雨に入る前に行われている。何度も行ううちに改善するところを話し合っているとのことだった。

このことから、災害時に備えて避難訓練を繰り返し行うことが大切だと分かる。各学校や高齢者施設などでの避難訓練はもちろんのこと、自分たちの住む地域での避難訓練も必要だと思う。同時に各家庭で災害が起きた時のことを想定してどこに避難するのか、何をもっていくのか常日頃から話しておくことも大事だと思う。

数年前、夜中に津波警報が出たことがあった。その時は親が家族全員を起こして、みんなで車に乗り高台へ避難した。高台には島中の人々が車で避難していた。寒い中、暗い道端に車を停めてひたすら警報が解除されるのを待った。僕たち家族は認知症の祖母と同居していたため、頻りにトイレに行きたがる祖母のために、高台の道を走り、トイレのあるところを探したり、じっとその場に停車していると移動するように言われて、あてもなく山の方向に車を走らせた。もしも災害にあい避難することになった時のことは想像するだけで恐ろしい。祖母のように認知症になってしまった人と一緒に避難する時のこともしっかりと考えていかなければならない。

命を守るために大切なことは、まず過去に起きた災害について知ることだと思う。そして、日頃から災害に備えておくことが大切だ。また、線状降水帯ができやすくなっている今の異常気象も土砂災害が起こる原因だ。この異常気象を改善するために、地球環境を良くしていく取り組みをするべきだ。そして、この災害を他人事だと思わず、一人一人が常日頃から意識することが重要だ。土砂災害が起きても、犠牲者が一人も出ないようになることを願っている。

お知らせ

- 1 入賞作品（絵画・作文）は、鹿児島県のホームページで公表しています。

【鹿児島県砂防課のホームページ】

<https://www.pref.kagoshima.jp/ah08/infra/kasen-sabo/sabo/dosyasaigaikaigasakubun06.html>

上記ホームページは「鹿児島県 土砂災害 絵画・作文」で検索が可能です。



- 2 「土砂災害防止に関する絵画・作文」は令和7年度も募集する予定です。
募集の案内は、鹿児島県砂防課から令和7年5月下旬に県内の小・中学校に送付するほか、鹿児島県ホームページ（上記）にも掲載します。
来年度も多くの応募をお待ちしています。

- 3 問合せ先

鹿児島県土木部砂防課管理係

E-mail : boushi-gr@pref.kagoshima.lg.jp

Tell : 099-286-3616

